

— 使徒言行録 15 章・1-2、22-29、黙示録 21 章 10-14、22-23、ヨハネ 14 章・23-29—

(そのとき、イエスは弟子たちに言われた。)
「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしはその人のところに行き、一緒に住む。わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いている言葉はわたしのものではなく、わたしをお遣わしになった父のものである。わたしは、あなたがたといたときに、これらのことを話した。しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。『わたしは去っていくが、また、あなたがたのところへ戻って来る』と言ったのをあなたがたは聞いた。わたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くのを喜んでくれるはずだ。父はわたしよりも偉大な方だからである。事が起こったときに、あなたがたが信じるようにと、今、その事の起こる前に話しておく。 —ヨハネ 14 章—

キリストが与える平和

先週に続く、最後の晩餐の席上での、キリストの遺言説教から三つのポイント。

- ① 「世が与える平和」とは = 人が人を苦しめて文句を言わせないシステム(競争社会)の中で、ひたすら富と繁栄を求めて、小さい弱者を踏み台にして「勝ち組」に上りつめて得る安泰です。
- ② 「父のもとに行く」とは = イエスが私たちの世に来られたのは、世界が救いを必要としている現実が前提としてあり、それはかつて、父に忠実を示した信仰の人アブラハムになされた契約が、子孫の不忠実(40年間に及ぶ荒れ野の生活)ゆえに反故にされたそのほころびを繕うためでした。イエスは宣教開始とともに荒れ野に入り、40日間の悪魔の誘惑に対して「父への忠実」を宣言します。そして今、その成就の時が来て、上る十字架への道が、私たち人類を引き連れ、先頭を切って父のもとに行く「栄光の時」なのです！

- ③ 「キリストが与える平和」とは = 悪に悪を返さず、愛を返す事。すなわち、自分の思いを捨て、存在全てを余すところなく御父に明け渡して得られる平和なのです

20 数年前、ルアンダの民族大逆殺事件で、3か月間トイレにかくまわれて生還した少女イマキュレーの話はあまりにも感動的でしょう！ 一家を殺害された囚人との面会で、思いのたけを言うために引合された囚人の前で、彼女が口にした言葉はたった一言「あなたを赦します」でした。引き合わせた解放軍のフランス兵は激怒します。「どういうことなんだ！ イマキュレー。あいつは、君の家族を殺したやつなんだぞ。あいつに尋問するためにここに引っ張ってきた。もし君が望めば唾を吐きかけてやれるように。それを許すだと！ どうしてそんなことが出来るんだ。なんでゆるしたりするんだ！」

トイレの中で、ロザリオを通して神から平安をいただいた彼女の返す言葉は、「赦ししか私には彼に与えるものはないのです」でした。 2022年5月22日 主任司祭 昌川 信雄

